

「丑」の手作り作品 南幌町に

大崎貞二町長(左端)に干支「丑」の手作り作品を贈る南幌めぐみ学園関係者



社会福祉法人 木製パズルや和紙工芸

【南幌】障がい者支援施設南幌めぐみ学園を運営する社会福祉法人南幌苑(栗林和史理事長)は8日、町に今年の手支「丑」の手作り木製パズルと和紙工芸の作

品を寄贈した。施設利用者が、デザインを変えて約30年寄贈し続けている。パズルは糸ノコでカッター材を切るなど2週間かけて、和紙工芸は1週間

ほどで仕上げた。受け取った大崎貞二町長は「新型コロナウイルスで苦労されている中、このような縁起物を作っていただけとは」と感謝した。

町長室に置かれていた前年の「子(ネズミ)」の作品は早速、交換された。

(土屋孝浩)